

解説：

正常圧水頭症には特発性と続発性があり，後者は細菌性髄膜炎やくも膜下出血後に発生する．脳脊髄液は脈絡叢で能動的に生産されて，脳の間質液を加えて，脳室系から脳表のくも膜下腔に流れて，最終的には頭頂部のくも膜顆粒から上矢状静脈洞で静脈系に合流するが，くも膜下腔からくも膜顆粒までのどこかで脳脊髄液の流れが悪くなると正常圧水頭症になる．脳画像診断では頭部の冠状断で円蓋部のくも膜下腔が閉塞していて，脳室拡大とともに脳室壁には脳脊髄液の脳実質への逆流を示す染み出し現象が観察される．症状は認知機能低下，歩行障害，尿失禁が三主徴として有名である．治療としては脳室腹腔短絡術 (VP shunt) が一般的である．

正解 d

復習問題

水頭症が続発するのはどれか．

- | | | |
|---------------|------------|------------|
| a アルツハイマー型認知症 | b 進行性核上性麻痺 | c ウイルス性髄膜炎 |
| d くも膜下出血 | e 脳出血 | |

正解 d